

審査員特別賞

「夫婦の一大イベント♡人間ドック」

吉川 あすかさん

山梨へ越してきて間もなく3年が経とうとしている。初めての甲府盆地で迎えた夏は、40度という記録的な暑さで、その冬には観測史上最高の積雪にも見舞われた。

“山梨って雪国だっけ？”と僅かな疑問を抱きつつも、毎年寒くなると鉄のスcoopを準備しスノーブーツを家族分並べる。我が家なりの冬仕度だ。

そんな生活にも慣れてきた頃、特に体の不調を感じたわけではなかったが、“そう言えば、ここ何年か健康診断やってなかったなあ”ということに気付く。パパは職場で、毎年健診をやっている様だが、私はというと、以前はかかりつけの病院で年に一度の健診をしていたのだが、引っ越しなどで何となく縁遠くなっていた。

“健診行かなきゃな。でも、山梨で健診ができる所ってどこだろう？”

専業主婦である私は、誰かが声をかけてくれるわけではない。自己管理が全てだ。とりあえず、身近なママ友からの情報収集。

「人間ドックみたいな健診やってる？」

年に一度必ずやっている人、全くやっていない人、「やりたいけれど健診って高いよね」と言う人、この先やろうとも思っていない人。答えは様々。

詳しく話を聞いてみると、「甲府市で人間ドックができる施設は何ヶ所かあるけど、厚生連はおすすめだよ。きれいだし検査もスムーズに受けられるよ。」とのこと。

また、別の友人は「厚生連のランチ食べたことある？野菜がバイキング形式で

食べられるし、お米も美味しいよ。」これが決め手となった。

“そうだ、厚生連へ行こう！！”

色々考えていても始まらないと、電話をかけてみる。すると年内はもうすでに予約で埋まっていた。そう聞くと“やばい、出遅れた！”と内心焦る。

“そんなに沢山の人が人間ドックやってるの？私の周りでは受けてる人は少ないのに…”

それまでは、”何となく面倒だなあまだいいかなあ”と先延ばしにしようとしている自分がいたが、“やらなきゃ損！！”とすっかり自分の中で変化があらわれる。パパにも予約取るのが大変だったことを伝える。

すっかり私の心は動かされていて、健診の必要性、自分の今の身体を知ることの大切さ、何より40年近く使っているこの身体、いつまでも昔のままでいられるはずがない。家や車と同じでメンテナンスが必要なんだと思いを伝える。

「じゃ、俺もやろうかな」と簡単に言う。

“うん。夫婦で人間ドックっていいかもしれない！！”

年が明け健診の日に近づく。世間はインフルエンザであふれている。

“私たち、いや娘たちが罹患してしまったら…やっと予約できたこの日を無駄にできない。”

幸い(?)娘は前の週に感染し無事完治。とうとう検査前日を迎えることになった。夜9時以降は絶飲食と注意書きがあるのに、夜8時をまわってもパパからの帰るコールがない。

“明日の人間ドック忘れてるのかな…タイムリミットあと1時間だよ～”

念の為メールをいれる。夜8時半ようやく帰るコール。

“あと30分しかない”

急遽、予定していた肉系おかずを排除し野菜中心のメニューに変更。

「パパ、早く食べて！」と急かしながら食後くつろぐ隙も与えず入浴させる。

「9時までなら、水飲んで大丈夫だよ。」と入浴もそこそこに水分補給を促す。明日に備え早めに寝ようとするも、検査のあれこれを思いドキドキ。目はランランとしてくる。

パパに至っては「明日はいつもよりゆっくりだから。」と夜更かしをしいる。

“人間ドックなめてる!?”

そして当日、少し緊張しながら施設へ入るも、聞いていた通り天井が高く開放感があり明るい雰囲気にもホッとする。

各場所に対応して下さるスタッフの方がいてうろうろする暇もなく順調に検査が進んでいく。

あっという間に検査終了。一気に緊張が解け、同時にお腹がすいてくる。

今回、唯一の楽しみである昼食の時間。

新鮮な野菜をもりもり食べ、優しい味付けの料理を頂き、食後デザートとコーヒーでしめる。久しぶりに夫婦だけでゆっくりと過ごす時間。

検査結果を見ながら、特に大きな問題がなかったことにひとまず安堵したものの、コレステロール値が高かったパパの結果を見て、日頃から家族ひとりひとりの血となり骨となる大切な食事を作っていることの責任の重さを改めて感じ、これからの改善点を話し合いながら、ふと川柳募集の用紙に目がとまる。

『久々の夫婦デートは人間ドック♡』

年に一度の夫婦のイベントとして、続けていこうと2人で笑った。